発行に寄せて

校長　秋元達也

私が「研究」と言えるべき営みに初めて関わったのは、大学時代に所属した漢文研究会での活動でした。教授の指導の下、漢字一字一字の意味を大漢和辞典という辞書で確認し、その漢字が他の作品ではどのような意味・用法で使用されているかという用例を調べ上げて意味を確定しながら、『史記』やシルクロードを舞台にした漢詩、恋愛がテーマの漢詩などを読み進めました。膨大な時間を要する地道な作業でしたが、その後の私の研究の基盤を培ってくれました。

教師となり、何回か研究授業や研究発表、さらには論文投稿も経験しました。今読み返せば顔から火が出るくらいの稚拙な内容ですが、その継続の先に、今の自分があることは否定できません。

研究論文とは、その時点での各人の思いや課題意識、挑戦などを総合的に表現した結果です。今回掲載された研究には全て、本校職員の「教師」としての今が凝縮されています。その意味で、現在の玉龍の教育の具体を感じ取っていただける内容となっています。と同時に、今回掲載された研究は、確実に明日の実践やさらなる研究の深化へとつながっていきます。ゆえに、これからの玉龍教育の広がりや可能性を示唆するものであることも間違いありません。本校職員は、今回原稿を寄せた職員以外も、みな同様の課題意識と情熱を持って、日々の教育活動に取り組んでいます。

社会的には様々な要因で落ち着かない状況が続いています。しかし本校の職員たちがしっかりと玉龍の大地に根を張り、日々落ち着いて研鑽を続けている結果としての本誌です。ぜひじっくりとご一読いただき、感想や御意見をお寄せください。皆様からのお一言が、その職員だけでなく、更なる本校の教育活動全体の充実に資するものと、校長として確信しております。